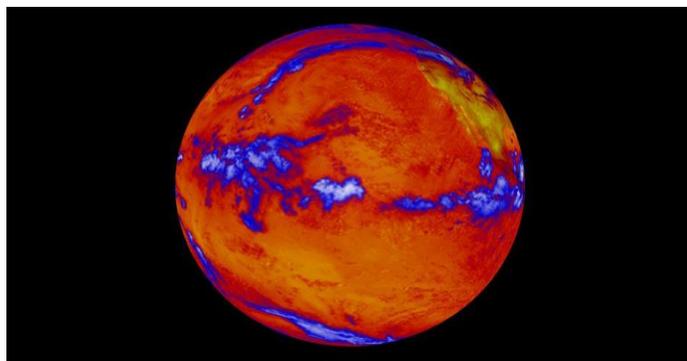




2021年度版地球温暖化対策

～実行計画～



湘南むぎぼたけ

地球温暖化対策と環境問題の改善

事業所を経営するためには 多角的に物事を視る必要が出てきています。地球温暖化の問題や自然災害への対応などは 事業種に関わらず対策を進めることが求められるようになってきています。

特に地球温暖化対策は 事業所の活動にも大きな影響がでることや一人ひとりがこの問題を認識し 取り組むことが より一層必要になると考えられます。

I 地球温暖化

1 地球温暖化による問題

地球温暖化が進むことで次のような環境変化や問題が起きています。

① 南極や北極の氷床の激減

氷床が融けて減少することで海面の上昇が起これり 海岸の後退や水没する地域が出てきます。また融けた水は比重が重く海底に沈み込み 海流に変化をもたらします。このことが気候変動の一員となります。また水温の変化で魚等の生息域が変わったり生物が死滅したりするだけでなく 漁場や漁獲量にも変化が起きます。

② 進む台風の大型化

海水温が上昇する地域が広がり 台風の発生数の増加や水蒸気量が増えることで巨大化が進みます。

③ 降水量の変化

地域的な気候変動が起これることで 降水量に変化が起これり砂漠化やわが国では局地的な豪雨が多発するようになります。

④ 風土病や感染症等のエリアが北上する

これまで熱帯や亜熱帯で発生していた風土病やウイルスを媒介する蚊等の生息域が温暖化により北上するようになり感染域が広がるのが考えられます。(エボラ出血熱やデング熱・マラリア等)

⑤ 海洋生物や陸上生物の生息域の変化

同様に動植物の生息域が北上し 生態系に変化が起これたり 死滅する動植物が出てくるようになります。

⑥ 海水の酸性化

CO₂等の酸性部室が海水に溶け込むことで 海の酸性化が進むことになります。酸性化が進むとサンゴや海洋生物が死滅したり激減したり生態系へ大きなダメージとなります。

以上のような現象が指摘されており、すでに私たちの実感することが起きているように思います。

注) ヒートアイランド現象による気温上昇

大都市部やその周辺において、車や工場の排出ガスやエアコンの室外機から出される熱風、さらには舗装道路やビルなどの放射熱（太陽光を吸収し徐々に放出）等により限られたエリア（都市部やその周辺）の気温が夏場に高温化する現象。

2 地球温暖化の現状

(1) 地球温暖化の仕組みと現状

地球の温暖化は、二酸化炭素（CO₂）やメタン・亜酸化窒素・フロン等の温室効果ガスが布団のような役割を果たし、熱が地球外に逃げず気温が上昇することです。

この傾向がみられ始めたのが、18～19世紀にかけての産業革命以降です。このころから石炭や石油を燃料とした蒸気機関の発達や工場生産が飛躍的に伸び、生産性の向上をもたらしました。しかしこのことで温室効果ガスが大量に排出されるようになりました。

その後20世紀には、私たちの生活の利便性や質の向上を図るために電気の使用量や車の台数も飛躍的に増えたことで、さらに温室効果ガスを排出するようになりました。

したがって地球温暖化は先進国による人為的な問題だとも言われています。

ちなみに1880年代の産業革命以降2012年までに、平均気温で0.85°C上昇したと報告されています。

(2) 今も増え続ける温室効果ガス

二酸化炭素（CO₂）に限れば、それらを減少させるためには、森林の吸収や植物による光合成などが必要となりますが、現状ではその吸収量の2倍近くが排出され増え続けています。

この増え続ける温室効果ガスを抑制するために2015年にパリで196の国と地域が参加して開かれた国際会議で温室効果ガスの削減目標を決めたのがパリ協定です。

ではこのパリ協定ではどのようなことが決められたのでしょうか。まず平均気温を今世紀末までに産業革命以前に比べ1.5°C程度の上昇に抑えることとしました。そのために21世紀末までの早い段階で排出される温室効果ガスと森林等が吸収する量とのバランスをとる、いわゆるカーボンニュートラルを達成することとしています。（海水もO₂を吸収し海藻類等が光合成により分解します。

3 温室効果ガス発生 の 主な要因

地球温暖化の主な原因となる温室効果ガスの発生源はどのようなものなのか見ていきましょう。

主な発生源となるのが次のようなところです。

主な排出関係	主な原因
発電関係	電力を供給するために化石燃料（石炭・石油等）の燃焼（火力発電）によるCO ₂ 等の発生
運輸関係	物資の輸送などに使用する車両や飛行燃料の燃焼（ガソリンや重油の燃焼時）によるCO ₂ 等の発生
製造関係	物を製造するときに使用するガソリンや重油・電気等によるCO ₂ 等の発生
農業牧畜関係	畜産や農業に使用する堆肥等によるメタンガスの発生や発電等に使用するガソリンや重油の燃焼によるCO ₂ 等の発生
家庭関係	車の移動等に使用するガソリンや家庭で使用する電気によるCO ₂ 等の発生
自然関係	火山噴火や森林火災・永久凍土の溶解・動物の呼吸・動植物の死滅等による温室効果ガスの発生。

注1 様々な分野で電力消費量が増えることで発電関係の需要が増え CO₂等の発生が増加する。

注2 経済活動や生活において 紙を使用することで森林伐採が進み 二酸化炭素等の吸収源の減少につながり結果的にCO₂等の増大となる。

4 期待される取り組み

環境省では2030年までに自動車の動力をCO₂排出ゼロにする方針をうちだしているため ターゲットは2030年として以下のことを進める必要があります。

部門（関係）	改善方向
発電関係	再生可能エネルギー（風力・波力・地熱・太陽光等）・原子力（安全性不透明）等の活用
運輸関係	ガソリン車から当面はハイブリッド車とし電気自動車（EV）や燃料電池車の利用へ転換
事業所関係	車両は電気または燃料電池車へ転換。印刷物等に紙の使用を大幅に削減（ペーパーレス化）。エアコン等電気製品については高効率製品に切り替える。照明はLED化 可能な限り再生可能エネルギーへ転換
家庭関係	所有自動車は 電気または燃料電池車へ切り替え 照明はLED化 家電製品は高効率製品へ切り替え 家は太陽光発電住宅へチャレンジ

II 環境問題（持続可能な社会を目指して）

1 プラスチックごみによる環境汚染

環境汚染は 土壌汚染・大気汚染・水質汚染等が挙げられますが 最近では プラスチックごみによる海洋汚染等が大きな問題となっています。

残念なことにプラスチックごみは 自然分解されることはなく 劣化により小さく（マイクロプラスチック化）なります。より小さくなったことで 海洋に流れ着いたゴミは魚介類の体内に取り込まれ 最終的に食物と一緒に人体に取り込まれます。

2 期待される生分解性プラスチック

生分解性プラスチックは 通常のプラスチックとは異なり 微生物の働きにより最終的に水と二酸化炭素にまで分解されることから 廃棄物処理問題の解決につながるものと期待されています。

成分は 植物に含まれるセルロースやとうもろこしやイモ類に含まれるでんぷんなどを使用し 製造されます。

3 資源の有効利用を目指して

取組内容	説 明
ペーパーレス化による森林保護	年間13万平方キロ（北海道と九州を合わせた広さ）が喪失。森は前段のCO2の吸収源だけでなく 災害の軽減や動物たちの住む場としても欠かせません。このことからペーパーレス化を進める必要があります。
ごみの分別収集	ごみの削減は当然ですが 分別収集を徹底することで より資源化率を高めることとなります。
マイバッグ・マイボトルの推進	プラスチックごみを削減するために ひとり一人がレジ袋やペットボトル等プラスチック製品の削減に努める必要があります。
5Rの推進	事業所や家庭で5Rをさらに進めることが望まれます。 R e d u e（発生抑制） R e u s e（再使用） R e c y l e（再生利用） R e f u s e（拒否） R e p a i r（修正・修繕）
生分解性プラスチックの使用	微生物により自然分解される製品で レジ袋やボトル容器等に使用され

用（グリーンマーク）	製品にはグリーンマークの表示があります。
エシカル消費	倫理的消費と訳され 環境や人権に配慮した商品等を優先利用することで SDG s と併せ様々な分野で取り組みが進められています。SDG s は国連が定める人権や環境・教育等 17 のミッションからなります。

III 私たちが目指すもの

地球温暖化や環境破壊（汚染）は まったなしのところまできていのように感じます。大きな気候変動により局地的に極端な気象となってあらわれています。我が国でも台風の大型化や線状豪雨による水害は毎年のように起こるようになってきています。夏場の最高気温が40℃を超える日も出るようになりました。また海洋汚染や海水温の上昇により 魚の生息域が変わったり死滅したりで これまで日本近海で獲れた魚が減少したりしています。

地球温暖化や環境汚染が手遅れとなる前に産業構造の変化だけでなく 事業活動や私たちひとり一人が日々行う消費（活動）についても根本から考え直す時期が来ていると思います。

環境意識を高め できることから取り組みましょう！（具体的には別表を参照）